

平成29年度 御殿場市議会運営委員会政視察報告書

1 視察日程

平成29年8月9日（水）から平成29年8月10日（木）まで

2 視察先及び視察事項

(1) 茨城県守谷市（8月9日）

市議会ICT化推進（タブレット端末導入）について

(2) 茨城県取手市（8月10日）

議会改革の取り組みについて

3 参加者

委員長 勝間田 幹也

副委員長 田代 耕一

委員 土屋 光行 辻川 公子 小林 恵美子

事務局 佐藤 歌愛 荒井 祥太

4 視察内容

■ 『市議会 I C T化推進（タブレット端末導入）について』

平成 2 9 年 8 月 9 日（水） 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0 於：守谷市役所

【守谷市視察先対応者】

守谷市議会議長	梅 木 伸 治
守谷市議会副議長	市 川 和 代
守谷市議会広報広聴特別委員会 委員長	青 木 公 達
守谷市議会事務局 局長	菅 谷 智 弘
守谷市議会事務局 係長	望 月 理 恵

≪視察研修の目的≫

I C T化への取り組みの全体像と成果、及び諸課題等について視察を行い、これを参考にし、I C T化の推進に役立てていく。

≪視察内容≫

守谷市は昭和 3 0 年 3 月守谷町・高野村・大野村・大井沢村の 1 町 3 ヶ村が合併し守谷町が誕生、平成 1 4 年に 2 月に守谷市が誕生した。東京都心から約 3 5 k m に位置し市内全域で宅地開発が進められている。道路交通の面では、昭和 5 6 年の常磐自動車道開通（柏一谷田部間）によって、都心への交通が大幅に向上するとともに首都圏の各都市とのつながりも強化され、平成 1 7 年に開業したつくばエクスプレスにより東京都心への交通の利便性が

なお一層改善された。また、台地上を中心に鉱石土の畑、利根川沿岸を中心に沖積土質の田が見られるなど自然も多く残る。

今回視察した守谷市議会は、平成24年2月市議会議員改選時に議会不要論が市民に起こるなか、議会として、『市民とともに進化し続ける守谷市議会』をキャッチフレーズに議会改革を推進してきた。その改革の一環として、広報特別委員会を平成24年に立ち上げ、ICTの利活用について検討してきた。平成25年5月にタブレット導入の検討を開始、平成26年11月には、議会のペーパーレス化と議員・事務局間の情報共有を目的に、検討開始からわずか1年余で導入にいたっている。

ソフトウェア等の選定については、5社による提案型ヒアリング形式により、低コスト、システムの信頼性、サポートの充実等を考慮し、富士ソフト社のペーパーレスシステムmoreNOTEを採用、タブレットは導入当初はElitePad（HP社）を採用したが、契約更新時にセキュリティーや操作性を重視しiPad Pro（Apple社）を現在は使用している。グループウェア等のソフトは導入していないようであり、フリーソフトのGmailを使用しメール配信している。また、スケジュール管理はジョルテカレンダーを使用していた。

タブレット導入の経費は総額で4,383,960円（23台×24ヶ月）税別、内訳は、タブレット端末3,588,000円、付属品496,800円、moreNOTE243,720円、キッティングほか55,440円、賃貸契約期間は平成28年11月から平成30年10月（24ヶ月）となっている。タブレット導入に係わる経費削減は紙資料作成に係わる経費、

総額 529,253 円/年、内訳は用紙代 26,565 円、印刷代 40,208 円、人件費 462,480 円である。事務作業の軽減による試算はしていなかった。

メリットは、議員間の迅速な情報共有が可能、市民への説明に活用、紙資料印刷及び配布に係わる事務削減、大量な紙資料の持ち運びがなくなり楽になった等があげられていた。デメリット



守谷市視察

ットは経費がかかる、議員の ICT に関する相談体制が必要、タブレットの故障・充電切れ時の対応等があげられていた。

導入から 3 年が経過し、ペーパーレス化に向け議会全体で取り組んでいる。

《 考 察 》

本市においては ICT 化推進委員会を立ち上げ今年度 6 月から YouTube を利用、市議会中継（録画）を実施し、12 月議会からタブレット端末導入を計画している。内容はタブレットについて機能や使い勝手から判断して守谷市と同じ iPad Pro 128GB（ディスプレイ 12.9 インチ）を 24 台（議員 21 台、事務局 3 台）、電子会議システムについてのアプリケーションソフトは東京インタープレイ㈱の SideBooks を採用予定、グループウェアについてのアプリケーションソフトは、画面の見やすさや操作性等で判断した結果、㈱ネオジャパン、desknet's NEO の導入

を予定している。

守谷市とはタブレット端末のみ同じだがソフトウェアについては異なる。特に守谷市採用のmoreNOTEは同一画面を2分割しての比較は出来ないのに対し、本市導入予定のSideBooksは分割画面の表示も可能で使い勝手が良いと判断する。コスト面では少し高額になるが、日々使用中では使い勝手の良い方が良い。運用上不都合や不具合が出た場合、納入業者がスピーディーに対応している点はこれから運用する本市としても参考となった。

ともあれ、検討から1年余で導入し議員全員が一丸となって取り組んでいる点、習うより慣れろといった発想が大切であると感じた。

■ 『議会改革の取り組みについて』

平成29年8月10日（木） 9：30～12：00 於：取手市役所

【取手市視察先対応者】

取手市議会議長	佐藤 清
取手市議会議会運営委員	赤羽 直一
取手市副市長	野口 龍一
取手市役所 総務部 部長	沼田 政巳
取手市議会事務局 局長	江角 晴次
取手市議会事務局 局長補佐	岩崎 弘宜

《視察研修の目的》

議会改革の具体化の状況と成果、及び課題等について視察を行い、これを参考に議会改革の更なる推進を図る。

《視察内容》

取手市は、昭和45年市政施行。平成17年に北相馬郡藤代町との合併によって人口10万人を突破するとともに、茨城県の「まちづくり特例市」に認定された。茨城県の南端に位置し、利根川とその支流である小貝川の二大河川が流れる水と緑に恵まれた地域である。茨城県の南部の玄関口としてばかりでなく、東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから交通の要となっており、首都圏の都市の中でも、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市である。

今回視察テーマとして取手市議会議会改革の取り組みについてであるが、主に議会報告会についてご教示いただいた。取手市議会は議会改革調査特別委員会（平成20年3月～平成21年2月）の決定に基づき、平成22年1月30日第1回議会報告を開催し、施行期間として年4回の議会報告を実施したものの、参加者の固定化、少数であったため同年12月の市議会全員協議会で施行期間終了とした。

その後、平成23年第1回定例会において「議会報告会再開に関する陳情」を採択したことにより平成23年7月23日に5回目となる議会報告会を実施し平成29年5月13日第15回となる議会報告会が開かれている。

この間、平成27年5月9日の第11回議会報告会までは参加者も少ない

状態が続いていた。同年11月7日の第12回議会報告会より、過去のアンケート結果等考慮し「せっかく行ったのだから話を聞くだけではなく、議員と話をしたい。」等の意見を参考に議会事務局の提言もあり初の意見交換会重視の議会報告会を実施した。その後参加者も増え、議会報告会で活発な意見交換が実施されている。



取手市視察

議員報告会での実施ではないが、全員協議会や委員会で平成29年度からワールドカフェ方式（対話による課題抽出）を用いた意見集約を実施していることは特筆すべき点である。ワールドカフェとは、与えられたテーマについて各テーブルで数人が議論し、次にテーブルホスト以外は他のテーブルへ移動し、そこのホストから前の議論の概要を聞いて、さらに議論を深め、これを何回か繰り返した後に、各テーブルホストがまとめの報告を全員にする方法であり、自由に発言をしながら、他の人々の様々な意見にも耳を傾ける機会を増やす利点がある。とのことであった。

6月2日に総務文教常任委員会で「いじめ防止対策に係る意見集約について」を議題とした取手市議会で初のワールドカフェ方式を用いた意見集約が実施された。また、6月26日には議員全員協議会「新採職員と議会議員の意見交換」事業として、「取手市の将来像（どんなまちにしたいのか）」をテーマに、ワールドカフェ方式により意見交換を行なった。22人の議員と26人の新規採用職員の計48人が8つのグループに分かれて対話を行い、新

規採用職員からはフレッシュで熱意のこもった意見が、議員からはこれまでの知識や経験を踏まえた意見が次々と出され、よりよい取手市をつくるためにどうしていくべきか議論を重ねたとのことであった。

また、座学終了後、「市民の健康づくりの推進」と「中心市街地の持続可能な活性化」を進めるための中核的施設、取手ウェルネスプラザの見学も行なった。



取手ウェルネスプラザ見学

《 考 察 》

議会報告会は一斉授業のような一方的な説明だけでは、参加者も不満に感ずる。意見交換が出来る場の提供が必要不可欠であり、議員と参加者が膝を突き合わせて話が出る雰囲気を作ることが大切と感じた。そうしたことで市民の思いや意見を受け止め、議員活動に役立てるよう努めていく必要がある。本市議会では昨年度から議会報告会を実施しているが、取手市の様に回を重ね試行錯誤し継続していくことが大切である。

また、対話による課題抽出の方法としてワールドカフェ方式を用いている点は、大変興味を持った。ワールドカフェ方式は、リラックスした場でそれぞれの意見が尊重され、柔和な雰囲気の中で自由に対話する方法とのことであり、活発な話し合いが出来、お互いの理解を深めながらさまざまな気づきや自由な発想アイデアを生み出すことができる。とのことであり一度体験したいと思う。

取手市議会はこの手法を用い委員会で議論を深め、いじめ防止対策に係る

条例制定に向け委員会の意見としてとりまとめていく予定とのことであり、本市議会もこの方法で課題抽出に取り組んでみたら良いのではと感じた。

また、取手市議会の議会事務局職員と議員が屈託なく意見交換が出来る雰囲気にも惹かれた。我々も思うことを遠慮なく言える雰囲気作りが大切である。